

令和元年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会(水球)
第87回日本高等学校選手権水泳競技大会(水球)

水球競技戦評

期日：令和元年8月17日(土)～20日(火)

会場：奥武山水泳プール

ゲームNo.

7

帽子の色 白

金沢市立工業

12

2	-	2
3	-	3
5	-	2
2	-	2
PS		

9

帽子の色 青

西京

審判1： 梶原 洋祐

審判2： 石谷 啓輔

戦 評

平成28・29・30年とインターハイ3連覇中の王者金沢市立工業高校と、3年生2人ながら3年ぶりのインターハイ出場を果たした西京高校との一戦。令和初チャンピオンを目指す金市工の⑦嶋本、⑤新田、②笠間の攻撃を中国地域を一位で突破した西京は抑え込み、流れをつかむ事ができるか注目です。

第1ピリオド

西京③久木田がセンターボールをとり試合開始。退水攻撃時7:05西京⑦田中がループシュートを決め先制点をあげる。6:09金市工②笠間がカウンターから得点し同点に追いつく。西京はGK⑬石田を中心に良く守り、カウンターから2:53⑦田中がワンタッチシュートを決める。金市工は退水攻撃時2:25⑫西田が点を取り、すぐさま同点。シュートチャンスは作るものの金市工に流れを与えない西京のディフェンスからのカウンター攻撃が効果的であった。(金市工2-2西京)

第2ピリオド

6:21金市工⑤新田のカウンターからの得点でリードを奪う。5:29西京⑦田中は退水誘発からフリースロー解除し自ら得点し同点。5:09金市工⑥宮澤がゴール前パワープレーでリードするも4:45西京⑧福田が退水誘発からリターンパスを受け得点し再び同点。3:55金市工⑦嶋本がワンタッチシュートを決める。0:53イリーガルタイムアウトで西京にペナルティシュートが与えられ同点に追いつく。金市工は退水守備時から攻撃に転換する際、フライングサブスティテューションを使った選手交代を活用する。一進一退の攻防が続くが、西京⑦田中、金市工⑤新田の活躍が目立つ。(金市工5-5西京)

第3ピリオド

金市工が7:18⑤新田の退水攻撃時の得点で、再びリード。西京⑧1年生福田がループシュートを決め同点。金市工は4:22②笠間、2:47⑦嶋本が連続得点。金市工がリードし西京が追いつく展開が続いたが、ここで点差は2点差に。更に2:06③作本が得点し、3点差に広がる。追いつきたい西京は⑦田中が退水誘発し、0:22⑩安村が得点。2点差に縮まるも、金市工はノータイムで0:00②笠間が得点し3点差。最終ピリオドの先制点はどちらが奪うのか。(金市工10-7西京)

第4ピリオド

西京7:30⑧福田がカウンターからループシュート。点差は2点差に。その後、5:41金市工⑤新田がカウンターから見事なパス回しを受け得点。西京も⑦田中がペナルティを誘発し5:26自ら得点するも、5:01⑤新田が退水攻撃時に得点。一度開いた点差がなかなか縮まらない。西京は2分半頃、ノーマークのシュートチャンスを作り出すが、不発。時間をうまく使って攻撃する金市工が12-9で勝利を収めた。

(金市工12-9西京)

金沢市工はシュートミスが多く、流れをつかめない展開が続いたが、自力の強さを見せ3ピリオドに広げた点差を守り逃げ切った。終盤はベンチの指示が選手に伝わりゲーム巧者の試合運びであった。西京は1・2年生を中心に良く戦い、次年度以降のリベンジに期待できると感じられた。

記 録 者

砂子阪誠・今崎哲也・加藤博一

令和元年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会(水球)
第87回日本高等学校選手権水泳競技大会(水球)

水球競技戦評

期日：令和元年8月17日(土)～20日(火)

会場：奥武山水泳プール

ゲームNo.

8

帽子の色 白

大垣東

8	2	-	2
	2	-	0
	1	-	3
	3	-	7
PS			

帽子の色 青

秀明英光

12

審判1： 福元 寿夫

審判2： 西村 尚史

戦 評

ここ数年常にインターハイ上位進出を果たしている大垣東高校と、近年常に優勝争いに絡んでおり、5年ぶりの優勝を目指す秀明英光高校との2回戦屈指の好カード。会場の歓声の多さからも注目度が高いと感じられ、激しい戦いが期待されます。

第1ピリオド

秀明⑩竹村がセンターボールをとり試合開始。秀明は果敢にカウンター攻撃を繰り出すが、大垣もシューターに確実なプレッシャーを与えミス誘う。5:05大垣②池田が相手選手の裏をとり先制点を奪う。4:27大垣⑩竹内のフリースローシュートで追加点。2:17秀明⑪中村が少人数カウンターから得点。1:42秀明⑪中村が連続得点し同点。プレスディフェンスからカウンター攻撃の秀明、無理をせず確実に攻め込む大垣。見応えのある1ピリオド目となった。(大垣2-2秀明)

第2ピリオド

6:58大垣⑨早藤がゴール前のパワープレーから得点。秀明はドライブ、ポストプレーと多彩に攻撃を仕掛けるが、大垣の組織的なディフェンスが得点を阻む。なかなか点の入らない時間が多く、水温が30度を越えている環境では選手にとって苦しいラリーが続いたが、0:25大垣②池田がフローターシュートから得点し2点差。後半、スタミナを切らさず戦えるのはどちらか。(大垣4-2秀明)

第3ピリオド

大垣は秀明のカウンターを防ぎ、ディフェンスを意識しながら攻撃を展開する。6:28大垣⑤安田がコーナーからのパスにうまく合わせ得点し3点差。秀明は退水攻撃時にペナルティを誘発し、4:20⑪中村が得点。大垣は2:39③伊藤が永久退水となるも巧みなディフェンスでここを守りきる。0:59秀明⑨角野がカウンターのパス回しから得点し、0:14秀明⑪中村がカウンターからループシュートを決め同点。会場のボルテージもあがり、最終ピリオドに注目が集まる。(大垣5-5秀明)

第4ピリオド

7:31秀明⑪中村が退水攻撃時に得点し、この試合秀明初めてのリード。勢いに乗りたい秀明は相手のミスからカウンターを出し7:14⑦青山が得点。大垣はタイムアウトを要求し思惑通り6:55⑨早藤がフローターシュートで得点する。6:17大垣⑦安藤がカウンターから得点し、再び同点。秀明は4:19退水攻撃時に④コップが得点しリード。3:29⑦青山がカウンター、2:46④コップがカットイン、1:57⑨角野、1:09⑦青山がカウンターから追加点を奪い、0:44大垣②池田に1点を返されるも12-8で勝利を収めた。(大垣8-12秀明)

最後まで泳ぎ切りカウンターを出し続けた秀明が4ピリオド目に泳力差を見せつけた。大垣は堅実な攻めを見せながら良く戦ったが、最後は相手の勢いを止める事ができなかった。

記 録 者

砂子阪誠・今崎哲也・加藤博一

令和元年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会(水球)
第87回日本高等学校選手権水泳競技大会(水球)

水球競技戦評

期日：令和元年8月17日(土)～20日(火)
会場：奥武山水泳プール

ゲームNo. 9

帽子の色 白

鹿児島南

18	5	-	1	6
	5	-	0	
	4	-	3	
	4	-	2	
PS				

帽子の色 青

関西

審判1: 塩崎 正一

審判2: 大坂 淳

戦 評

初戦の序盤苦しみながらも、最後は王者の風格を漂わせ勝ち上がった鹿児島南高校と、創部昭和35年、インターハイ優勝2回を誇る伝統校関西高校との一戦。多彩な攻撃を仕掛けてくる鹿児島南をいかに守り、力強い攻撃を関西が見せる事ができるか。

第1ピリオド

鹿児島③長谷川がセンターボールをとり、7:38⑥加治木がゴール前ですぐさま先制点をあげる。6:31鹿南⑦荻原がカウンター、5:55鹿南⑦荻原がミドルシュート、4:38⑫平手がカウンターで追加点。関西も4:22②荒木が退水攻撃時から一点を返すも、2:50鹿南④田村がカウンターで追加点を奪う。関西は②荒木がノーマークのチャンスを作るが、鹿南GK①木之下がファインセーブを見せる。関西はポストプレーを警戒するためゾーンで守るもカウンターでの失点が重なる。(鹿児島南5-1関西)

第2ピリオド

2ピリオド開始直後、関西GK①高木が鹿南のバックシュートにうまく反応し必死のディフェンスを見せる。関西GK①高木はその後懸念なセービングをするが、鹿南は攻撃の手を緩めず7:07鹿南⑤都田、6:22⑥加治木、5:46②園田が追加点を奪う。お互いに退水を奪い合うが展開が続くが、得点につながらない。1:49鹿南⑤都田がゴール前、0:11⑪内野が追加点をとり、点差は9点差となる。(鹿児島南10-1関西)

第3ピリオド

7:18鹿南⑦荻原がポストプレーからGKの裏をつくるループシュートで得点。関西も③藤田⑪丸山がカウンターで抜け出し5:38⑪丸山が得点を奪う。その後、鹿南は5:12⑦荻原、4:35⑤都田が追加点。4:01関西⑤名越が相手選手の反則からノーマークのチャンスを作り得点するも、3:35鹿南④田村がすぐさま得点。関西は②荒木らが退水誘発し、幾度となくチャンスを作るが得点が遠い。0:02関西②荒木がペナルティシュートを決めるも、点差は大きなものとなっている。(鹿児島南14-4関西)

第4ピリオド

鹿児島は7:43⑥加治木、7:10③長谷川が追加点をとり点差を広げる。関西も4:54②荒木が奮闘し、1点を返す。鹿児島は4:28④田村、2:29③長谷川 が更に追加点。関西が0:52⑤名越の得点で1点を返すも18-6で鹿児島南が勝利を収めた。(鹿児島南18-6関西)

関西高校は退水誘発など、多くのチャンスをつくるものの決定率が低く、チャンスを得点につなげる事ができなかった。鹿児島南高校は、初戦に比べシュート決定率が上がり、攻撃バリエーションも増え、圧倒的な試合展開を繰り広げた。次戦は昨年の国体でも対戦している金沢市立工業高校との対戦となる。注目度も高まっている。

記 録 者

砂子阪誠・今崎哲也・加藤博一

令和元年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会(水球)
第87回日本高等学校選手権水泳競技大会(水球)

水球競技戦評

期日：令和元年8月17日(土)～20日(火)

会場：奥武山水泳プール

ゲームNo.

10

帽子の色 白

那覇西

16	2	-	2	9
	3	-	2	
	6	-	1	
	5	-	4	
	PS			

帽子の色 青

福岡工業

審判1： 牧田 和彦

審判2： 黒崎 千智

戦評

創部9年目地元優勝を目指す那覇西高校、初戦持ち前の力強さを発揮し勝ちあがった福岡工業高校との一戦。地元の大声援を那覇西は力に変える事ができるか。

第1ピリオド

那覇西⑦伊波がセンターボールをとり試合開始。那覇西がボールをカットする度、シュートを打つ度に会場は大歓声で盛り上がる。その中、福岡のGK①薮がファインセーブを繰り返し、得点を与えない。福岡はディフェンスからの流れで4:12⑨勝木が先制点をあげる。3:20那覇西⑤砂邊が左サイドからループシュートを決め同点。1:30那覇西⑥登川が得点し、那覇西リード。福岡も0:37⑪1年生三田が同点に追いつき、1ピリオド目は気迫と気迫がぶつかり合う熱戦となる。(那覇西2-2福岡工業)

第2ピリオド

7:13福岡⑪三田が技ありのループシュートで得点。那覇西もすぐさま6:44③仲本が退水誘発し、自ら得点し同点に追いつく。那覇西は4:31③仲本が久々に見るナックリングシュート、3:05⑥登川のプローターシュートで2点リード。福岡も⑨勝木が粘り強いシュート、②田中の退水誘発等で幾度となく攻撃を繰り返し、0:41⑤志原のバックシュートで1点差に詰め寄る。GK①薮のセービングも光る。

(那覇西5-4福岡工業)

第3ピリオド

6:23那覇西④大場がカットインから相手選手の前に入り得点、5:21②金城が得点し、点差を4点に広げる。福岡は退水誘発から決定機を作るが、那覇西GK①森永が渾身のセーブ。勢いに乗る那覇西は4:07⑦伊波3:27③仲本、2:16、0:53④大場の連続得点。福岡も⑥重松の退水攻撃時のシュートで1点を返すが、那覇西は3ピリオド目6連続得点で福岡を突き放す。(那覇西11-5福岡工業)

第4ピリオド

那覇西は3ピリオド目からの勢いそのままに7:26②金城、6:16④大場、5:36⑥登川、5:07⑧瀬名波の4連続得点。福岡は4:08⑤志原のプローターシュートで1点を返す。その後那覇西はペナルティーシュートを誘発するも福岡GK①薮がセービング。1:29那覇西⑤砂邊のカウンターでの得点後、福岡は1:13⑨勝木、0:50⑨神崎、0:16⑥重松の連続得点で意地を見せたが、16-9で那覇西が勝利した。

(那覇西16-9福岡工業)

那覇西は初戦という事もあり、多少動きに固さがあったが、3ピリオド目以降の連続得点に見られるように後半は本来の動きを取り戻した。福岡工業は最後まで諦める事のない気持ちの入ったプレーを見せた。そのような両校の姿に、観客の歓声からは敵味方関係なく、純粋に水球を楽しむ声が聞こえ、スポーツの素晴らしさを感じられる一戦でもあった。

記録者

砂子阪誠・今崎哲也・加藤博一

令和元年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会(水球)
第87回日本高等学校選手権水泳競技大会(水球)

水球競技戦評

期日：令和元年8月17日(土)～20日(火)
会場：奥武山水泳プール

ゲームNo. 11

帽子の色 白

鳥羽

29

6	-	0
9	-	0
7	-	1
7	-	1
PS		

2

帽子の色 青

黒沢尻工業

審判1： 大坂 淳
審判2： 西村 尚史

戦 評

盤石の戦いぶりで初戦突破した鳥羽高校、悲願の全国大会1勝を目指す黒沢尻工業高校との一戦。

第1ピリオド

鳥羽⑥渡邊君がセンターボールをとり、初戦同様そのままシュートを放ち試合が開始。5:50鳥羽⑤藤原がカウンターから得点し先制点をあげる。4:18、3:52②岡本がカウンターから追加点。しばらくラリーが続いたが1:08⑫藤井の追加点、0:36⑩増井のペナルティシュート、0:00⑥渡邊が得点し6点差に。黒沢尻もボールを展開し⑦藤本⑥藤原を中心に攻撃を仕掛けていく。鳥羽は状況判断が徹底されており、味方選手の動きをカバーし合い、黒沢尻に決定機を与えない。(鳥羽6-0黒沢尻)

第2ピリオド

5:59鳥羽⑤藤原がカウンターから相手選手の裏をとり、追加点。鳥羽は5:21、4:54⑥渡邊、4:24②岡本のカウンター、3:26⑦高橋の退水攻撃時の得点、2:54⑥渡邊、2:21②岡本、1:54⑦高橋、0:51⑥渡邊のカウンターでの連続得点。15対0で2ピリオドを終える。黒沢尻も⑥藤原、④後藤が右ポストで起点を作り、左サイドにいる⑤齋藤⑦藤本のドライバーに合わせシュートを打ちたいところだが、なかなかシュートまでたどり着かない。(鳥羽15-0黒沢尻)

第3ピリオド

何としても1点をとりたい黒沢尻であったが、鳥羽の7:07⑥渡邊、6:32②岡本、5:02⑥渡邊、4:23②岡本、3:09⑪尾池、2:34⑫藤井のカウンターから連続得点を止める事ができない。黒沢尻は1:32⑥藤原がゴール前で力強くプレーし、待望の1点を奪取する。その後、鳥羽もすぐさま1:19⑤藤原が退水攻撃時からの得点で点を返す。黒沢尻はアクティブに攻撃し退水を誘発し、さらなる得点につなげたい。(鳥羽22-1黒沢尻)

第4ピリオド

4ピリオド目も勢いそのままに、7:07⑥渡邊、4:49⑦高橋が点数を重ねていく。黒沢尻は退水誘発後、3:31④後藤がチーム2得点目を奪うが、その後は再び鳥羽がカウンターから2:27⑦高橋、2:01、1:37、1:02③佐久間、0:00⑨本部の連続得点で最終ピリオドを終える。(鳥羽29-2黒沢尻)

黒沢尻工業高校は点を奪う為、前半から果敢に動いたがシュートまでたどり着く回数が少なかった。鳥羽のカウンターの勢いを止める事ができず失点が重なり、敗戦となった。鳥羽高校はチームとしてのディフェンスが徹底されていた。4ピリオド通して退水となったのは1回という所はフェアプレーの観点からみても非常に素晴らしかった。明日は明大中野高校との一戦。熱戦が期待される。

記 録 者 砂子阪誠・今崎哲也・加藤博一

令和元年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会(水球)
第87回日本高等学校選手権水泳競技大会(水球)

水球競技戦評

期日：令和元年8月17日(土)～20日(火)
会場：奥武山水泳プール

ゲームNo. 12

帽子の色 白

山形工業

7	2	-	4	18
	0	-	6	
	2	-	4	
	3	-	4	
	PS			

帽子の色 青

四日市中央工業

審判1： 梶原 洋祐

審判2： 黒崎 千智

戦 評

インターハイ過去31回出場、東北大会13連覇中の強豪山形工業高校、キャプテン畑を中心とした多彩な攻撃で初戦を勝ち上がった四日市中央工業高校との一戦。

第1ピリオド

四中工⑦山田船がセンターボールをとり試合開始。山工選手の奮闘に女子生徒の声援がとぶも、四中工が5:24⑤谷がカウンターから先制点をあげる。4:16山工⑩1年生吉田の得点で同点に追いつく。四中工も、すかさず3:59⑤谷が得点を奪い再びリード。3:26⑥小林もカウンターから追加点を奪う。2:44山工③村上がパワープレーから得点するも、2:28四中工③萩村が得点。1ピリオド目はお互いに点を取りあう展開。山工GK①高橋、四中工GK①鈴木の活躍も多くみられる(山工2-4四中工)

第2ピリオド

5:54⑦山田船がカウンターから追加点。点差は3点差。山工は⑦村岡の力強いプレーで得点を狙うが、四中工5:02④畑、4:22②山田風、3:41④畑がカウンターから、3:01⑤谷が退水攻撃時から、2:21⑤谷がカウンターからさらなる追加点を奪う。連続失点を止めたい山工であったが、厳しい時間が続いた2ピリオドであった。(山工2-10四中工)

第3ピリオド

山工は⑦村岡がディフェンス時も相手側陣地に居残り、オフェンス転換時に素早くボールを展開したいか。6:16四中工⑩城の追加点をとり、点差は9点差。粘りたい山工は3:44⑦村岡が回し込みから1点を返す。3:29四中工⑩城もすぐさま点を取り返す。1:54山工⑦村岡のフリースローシュートの得点に会場からの声援も一層大きくなった。四中工のリードは1:04⑤谷、0:00④畑が追加点で点差は10点差となる。(山工4-14四中工)

第4ピリオド

四中工はこの試合カウンター攻撃に加え、トリッキーなパス回し、ドライブ攻撃、ポストプレーと多彩な攻撃を仕掛けている。④畑、⑤谷、②山田風の3年生に加え、1年生⑦山田船もめざましい活躍をみせている。5:22⑤谷、4:46②山田風が得点を重ねる。4:21山工⑦村岡もループシュート、3:59四中工②山田風のミドルシュート、3:31山工⑦村岡フリースローシュート、2:19四中工⑧佐藤の退水誘発後の得点、1:32山工③村上のカウンターと両チーム交互に点を奪い、四中工が勝利を収める。(山工7-18四中工)

山形工業は⑦村上を中心に果敢に攻めたが、四中工の壁が厚かった。勝利した四中工は退水0回とフェアプレーで素晴らしい戦いであった。No11の試合同様、クリーンなプレーが多い事は称賛に値する。明日は四日市中央工業高校対秀明英光高校の対戦。白熱の戦いとなるであろう。

記 録 者

砂子阪誠・今崎哲也・加藤博一